

IUCN のモロイ氏による小笠原諸島現地視察の際のコメント

◆ 現地視察の目的

小笠原諸島を世界自然遺産として推薦するため、世界自然遺産の評価に直接関わった経験のあるモロイ氏※を小笠原諸島に招き、現地視察を踏まえた上で、推薦に向けた自然価値の整理及び保全の具体的手法等について総合的な助言を頂いた。

※ モロイ氏 Les Molloy

ニュージーランド在住。世界自然遺産の審査を担当する国際自然保護連合 IUCN の自然遺産評価委員として特にアジア太平洋地域の遺産物件の審査を担当（屋久島も審査を担当）。世界自然遺産コンサルタントとして遺産推薦に向けた助言も行っており、知床でもアドバイスを受けた。

◆ 期間……平成18年6月15日～26日（12日間）

◆ コメントの概要

1. 小笠原には世界自然遺産としての価値があるか

（クライテリアとの合致について（クライテリアについては別紙参照））

自然景観：海蝕崖、沖に広がるサンゴ礁、南島の沈水カルスト等、いろいろな種類の景観があり非常に美しく堪能したが、例えば屋久杉のような、極めて特異なここにしかない景観があるわけではなく、他の火山島、特に太平洋の島々の景観に比べて特に優れているわけではないと思う。

地形・地質：クライテリアに合致する可能性がある。最も古い父島列島には様々な地質が存在し、4400万年前に起こった地殻変動や海底火山活動の様子を知ることができる。特徴的な岩石としては無人岩（ボニナイト）がある。無人岩は隕石にのみ含まれる結晶を持つ特異な岩石であり世界的な分布は非常に限られているが、小笠原では良い状態のものを容易に観察することができる。

生態系：クライテリアに合致していると考えられる。小笠原諸島では限られた面積の中で独自の進化をとげた様々な動植物が見られる。中でも陸産貝類は最も研究が進んでおり、非常によい事例である。

生物多様性：通常、海洋島は種の多様性が小さいことから、このクライテリアで特に優れていることは少なく難しい。小笠原諸島には多くの固有種が見られるものの、このクライテリアに

合致出来るかどうかは、他地域との比較など十分な検討が必要。

2. 登録に向けての課題について

1) 外来種対策について

- ・ 対策についてはまだ「研究段階」であって、「実施段階」に進んでいない印象。計画（自然再生基本計画（資料6）のこと）は間違っていないので早急に対策を進め、まず実施段階に進むべき。対策が実施段階に進めば推薦は可能だが、遺産登録の可能性をより高めるため、推薦を遅らせてでも、問題を解決できることを実証することを提案したい。
- ・ 多くの資金と労力がかかるものよりも、実現可能性の高いものから着手すること。
- ・ 侵入の前線で予防的措置を行うことも重要である。

2) 推薦に関連させた対策

地元の取り組みも重要。地元行政機関を中心に以下の対策を期待したい。

- ・ 飼い猫対策（マイクロチップの埋め込み、去勢手術など）
- ・ オガサワラオオコウモリの保全策（農業との共生）
- ・ 普及啓発活動……屋久島をモデルとして、東京都と協力して実施
- ・ 利用のコントロール、外来種の非意図的移入の防止など

3) 小笠原国立公園、広報、体制その他

- ・ 国立公園であることは重要であり、利用者にももっとアピールすること。
- ・ 陸域の価値、魅力に関する広報が不足している。
- ・ 兄島が一番重要な島である。公園計画を変更し、包括的管理計画を作ること。また、重点的に外来種対策を進めるべきである。
- ・ 全体を把握し、複数機関の予算や研究プログラムを調整・指示する技術的なリーダー（技術的調整者）が必要。
- ・ ニュージーランド等の事例に学ぶべき。……等

3. 総括

小笠原には世界自然遺産としての価値は十分あると思われる。一方で、課題も多いが、課題への対処方針は適切であり、速やかに対処を進めることが重要である。

(別紙)

◆ 世界遺産のクライテリア

(i)～(vi)は、文化遺産のクライテリア。

自然遺産が関係するクライテリアは、以下の4つ。世界自然遺産として登録されるためには、1つ以上のクライテリアを満たすことが必要。

(vii) : 自然景観

最上級の自然現象、又は、類まれな自然美・美的価値を有する地域を包含する。

(viii) : 地形・地質

生命進化の記録や、地形形成における重要な進行中の地質学的過程、あるいは重要な地形学的又は自然地理学的特徴といった、地球の歴史の主要な段階を代表する顕著な見本である。

(ix) : 生態系

陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。

(x) : 生物多様性

学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を包含する。

◆ 完全性

世界遺産一覧表に登録推薦される資産は全て、完全性の条件を満たすことが求められる。完全性は、自然遺産・文化遺産とそれらの特質のすべてが無傷で包含されている度合いを測るための物差しである。以下について、完全性の宣言において説明を行う必要がある。

- a) 顕著な普遍的価値が発揮されるのに必要な要素がすべて含まれているか。
- b) 当該資産の重要性を示す特徴を不足なく代表するために適切な大きさが確保されているか。
- c) 開発及び/又は管理放棄による負の影響を受けているか。

各クライテリアに該当する世界自然遺産の事例

クライテリア (vii) : 景観

- ① グランド・キャニオン国立公園 (アメリカ 1979 年登録) (vii)(viii)(ix)(x)
(面積 4,931 km²)

コロラド川に削られてできたグランド・キャニオン (深さは 1,500m 近くある) は世界で最も壮観な峡谷である。アリゾナ州に位置し、グランド・キャニオン国立公園を横断している。水平地層は 20 億年の地質史を示している。また過酷な環境に適応した前史人類の遺跡もある。

- ② イグアス国立公園 (アルゼンチン 1984 年登録・ブラジル 1986 年登録)
いずれも (vii)(viii) (面積各 555 km²・1,700km²)

アルゼンチンとブラジルの国境に位置し、直径 2,700m の半円形で高さ 80m の滝である。いくつもの小滝が水をきらめかせ、世界で最も壮観な滝の一つである。周囲は亜熱帯雨林で、2,000 種以上の維管束植物が生育し、バク、オオアリクイ、ホエザル、オセロット、ジャガー、オオカワウソ、カイマンなど地域特有の野生動物の生息地となっている。

クライテリア (viii) : 地形・地質

- ③ ジャイアンツ・コースウェーとコースウェー海岸 (イギリス 1986 年登録) (vii)(viii)
(面積 0.7 km²)

北アイルランドのアントリム台地の端の海岸。約 40,000 の玄武岩の黒い石柱が海の中にそびえており、巨人がスコットランドに渡るのに使ったという伝説に基づく地名。この地に関する過去 300 年間の地質学的研究は地球科学の発展に大きく寄与し、この地形は約 5 - 6 千万年前の第 3 紀の火山活動で形成されたことが判明している。

- ④ ミグアシャ公園 (カナダ 1999 年登録) (viii) (面積 16.5km²)

ケベック州南東部のガスぺ半島にあり、3 億 7 千万年前の「魚の時代」として知られるデボン紀について世界で最も代表的な例と考えられる。この時代に知られている 6 群の魚類化石のうち 5 群がこの地で見られる。この地の重要性は陸棲四つ足動物の先祖となった総鱗類の化石を多数、しかも良い保存状態で有していることである。

クライテリア(ix) : 生態系

- ⑤ ガラパゴス諸島（エクアドル 1978 年登録 2001 年海域に拡張）（vii）（viii）（ix）（x）
（面積 133,000 km²）

南米大陸から約 1,000km 離れた太平洋上に浮かぶ 19 の島とその周囲の海洋保護区は「生きた博物館、進化のショーケース」と呼ばれている。3 海流がぶつかりあう地点で海洋種の「るつぼ」となっている。継続している地震・火山活動は島が形成された地質活動を反映している。こうした地質活動に加えて島が孤立していることから、リクイグアナやゾウガメ、多様なフィンチ類など、特異な動物相が発達し、チャールズ・ダーウィンが 1835 年の訪問の後に発表した進化論のきっかけとなった。

- ⑥ ケニア山国立公園／自然林（ケニア 1997 年登録）（vii）（ix）（面積 1,420km²）

標高 5,199m でケニア山はアフリカ大陸で二番目に高い。古い死火山で、310～260 万年前の活発に活動していた頃は 6,500m 程度の高さがあったと考えられている。氷河の名残が 12 カ所あるがいずれも急速に消失しつつあり、U 字型の氷河渓谷の上に 4 つの峰がある。氷河に覆われたごつごつした頂上と中腹の森林によって、ケニア山は東アフリカで最も印象的な景観の一つである。またこの地におけるアフリカ山地植生の進化、生態は、生態学的過程の顕著な例となっている。

クライテリア(x) : 生物多様性

- ⑦ アルガン礁国立公園（モーリタニア 1989 年登録）（ix）（x）（面積 12,000 km²）

大西洋に面した本公園には砂丘、海岸湿地帯、小島、浅瀬などがある。厳しい砂漠環境と海洋の生物多様性の対比が美しい景観を作り出している。多様な渡り鳥が越冬する。ウミガメやイルカも数種類生息しており、漁師によって魚群誘致に利用されている。

- ⑧ ディスカヴァリー・コースト大西洋岸森林保護区（ブラジル 1999 年登録）（ix）（x）
（面積 1,120 km²）

バイア州からエスピリト・サント州にかけて 8 カ所の保護区から成り、112,000ha の森林を有する。ブラジルの大西洋岸熱帯雨林は世界で最も生物多様性に優れている。固有種が多く、進化のパターンを示すような独特の生物種を有しており、これは科学的興味ばかりでなく保全上も重要な地域である。